

【児童アンケート】chromebookでの実施（324人回答）

学校生活の様子

全体的に概ね良好という結果である。20項目中17項目において、「そう思う」と「少しそう思う」が合わせて80%以上になった。さらに、17項目中9項目において、「そう思う」「少しそう思う」が90%以上という結果となった。様々な場面における児童の積極性がうかがわれる。

特に「仲良しの友だちがいる」「友だちと仲良くしている」「学校や学級のきまりを守っている」「掃除当番や給食当番をきちんと行っている」「係や委員会活動の仕事をきちんと行っている」「安全に注意して登校や下校をしている」と答えた児童が多く、95%以上が「そう思う」「少しそう思う」と回答していた。一方で、本を読むことや読み聞かせに興味を示さない児童が18%、進んで勉強しようという意欲をもてない児童が13%いることが分かった。

また、学校生活に不安や不満を感じている児童が一定数いることが見て取れる。このことは、学校として重く受け止め、それぞれの困り感に寄り添っていく必要があると考える。

家での様子

今年度も、朝ご飯をしっかりと食べて登校している児童が多いことが分かった。お手伝いやあいさつについては80%を超える児童が肯定的な回答だった。「家で、進んで本を読んでいますか」という質問に、「ほとんど、またはまったく本を読まない」と答えた児童が44%だった。スマートフォンやパソコンを扱う時間が生活の多くを占め、読書にまで手が回らないのが実情である。読書の喜びや読書による世界の広がりを低学年のうちから経験させ、読書の習慣化につなげたいと考える。

【保護者アンケート】LINEでの実施（家庭数274件中 250件回答 91%）

昨年度に引き続きLINEで実施した。個人面談中にQRコードの校内掲示をしたり、協力依頼メールを再配信したりした結果、91%の回収率となった。学校評価に対する期待が大きいと受け止める。

学校からのたより・ホームページなどに目を通し、お子さんとの会話に役との会話に役立てている家庭は74%あり、教育活動に関心をもっていることが分かる。児童の学校生活を支えていただくために、保護者の意識を高めていくことが重要であると考え。これからも根気よく家庭への情報発信を行い、連携に努めていくとともに、発信の方法についても検討していく必要がある。

全体的に肯定的な回答（できている・ややできている）である。中でも「授業参観や個人面談等の機会を適切に設けている」（97%）、「お子さんは学校に楽しく通っている」（92%）、「家庭への連絡や情報提供を適切に行っている」（92%）、「子どもたちが意欲的に活動できるように学校行事等を適切に計画し実践している」（88%）、「家庭・地域の理解と協力を得た学校運営を行っている」（83%）は、肯定的な回答（できている・ややできている）が多かった。

授業参観や個人面談などの機会を適切に設けたり、日々丁寧に連絡をしたりする教員の姿勢が保護者から評価されたと言える。

【教職員アンケート】LINE の実施

「児童がお互いの良さを認め合い、誰とでも仲良くできるように学級経営に努める」「児童の自己肯定感を高め、明るく前向きな学校生活を送れるよう適切な指導・支援に努める」「いじめの早期発見と指導、不登校児童・配慮を要する児童への支援に努める」において、「できている」「ややできている」が 100%となった。教職員一人一人が児童にしっかりと向き合っていること、また、「チーム」として適切に事態に対応していることが分かる。今後も、小さなことも見逃さない教職員の意識、事案に対するねばり強い取組が継続できる体制づくりを進めたい。

また、「学校からの情報を積極的に配信するとともに、授業参観や懇談会を効果的に利用し、学校・学年・学級の方針への一層の理解と協力を図る」については、一昨年度より昨年度、昨年度より今年度というように、3年かけてよい結果につながっている。ホームページやLINEでの情報発信に加え、保護者会や個人面談の効果的な実施、各種たよりの発行、日々の丁寧な連絡など、必要なことを必要な時に発信することを心がけている教職員の姿が浮かび上がる。

全体的に肯定的な回答が多く、教職員の意識の高さ、チームとしての連携の充実を感じる。全職員で計画的に校内研究に取り組み、指導の充実、学力の定着を図ってきたことが、今回の結果に大きくつながったとも言える。

令和5年度は、多くの場面で制限のない教育活動を展開することができたが、その分教師だけでなく児童も多忙さが増したように感じる。教育課程を見直し、本当に大切とされるものに十分な時間を割いていけるよう今後継続的に検討していきたい。そのためには、教育活動の重点化や年間計画の見直しが喫緊の課題である。